

平成 29 年度 第 2 回 学校運営協議会 議事録

司会：八田直昭全日制副校長

日時：平成 29 年 11 月 30 日（木） 14 時 30 分～16 時 40 分

場所：大会議室

【出席者】

長田 利彦 (元本校校長、東海大学講師)
近藤 赳夫 (城北自治会長)
星寄 文克 (小田原市立桜井小学校教頭)
市川 嘉裕 (小田原市立城北中学校校長)
木村 亘 (小田原市役所市民部地域政策課)
泉川 佳奈子 (本校 P T A 会長)

[本校職員]

改田 晃 校長
八田 直昭 副校長
蓑島 信成 総括教諭 (全日制) 広報連携グループ
菊川 巖 総括教諭 (定時制)
鈴木 浩司 総括教諭 (定時制)
磯田 裕也 教諭 (全日制) 広報連携グループ

【事前配付資料】

- ① 平成 29 年度学校評価報告書 ((目標設定) 全日制、定時制)
- ② 平成 29 年度学校教育計画 (全日制、定時制)
- ③ 県立小田原城北工業高校グランドデザイン
- ④ 平成 28 年度学校評価実施報告書 (全日制、定時制)
- ⑤ 平成 29 年度年間行事計画 (全日制、定時制)

【当日配付資料】

- ① 平成 29 年度 小田原城北工業高等学校 学校運営協議会委員名簿
- ② 今年度の取組の中間報告 (全・定)
- ③ 平成 29 年度の部活動の主な実績 (抜粋)
- ④ コミュニティースクールイメージ (案)
- ⑤ 県立学校で神奈川らしいコミュニティースクールをはじめます！
- ⑥ 学校要覧

【次第】

- (1) 校長あいさつ

(2) 協議

①今年度の取組みの中間報告について（全定担当）

○八田副校長より

【1 教育課程学習指導】

●主体的協働的学びの中間報告

「4 かなり当てはまる」の回答率は 66%であった。当初は 3 割以上としていたが授業の理解度が進んでいるのではないかと。話し合いや発表の機会の回答率は相対的に低かった。

●学校行事について中間報告

行事については生徒が活動していた様子が伺える。

体育祭・文化祭は熱心に準備をしていた。新役員は 2 月ごろから準備を進められるよう生徒支援ではサポートしたい。文化祭ではテントの販売が多いため、工業高校らしい発表ができるようサポートしたい。

【2 生徒指導・支援】

●生活指導

携帯電話の使用に関する指導が教員間に差があるので徹底したい。

身だしなみ指導は一定の効果があった。巡回指導は巡回表を張り出し忘れないよう気をつける。

●部活動

昨年より部活動加入率は微増。

実際には活動していない部員も見受けられるので定着率の向上も図りたい。

【3 進路指導支援】

●インターンシップ

県西のインターンシップに参加する生徒はいたが、学校独自のものは参加生徒が減少。

●キャリア教育

キャリアプログラムをより充実させ、1・2 年対象に労働法に関する研修会を実施予定。

【4 地域等の協働】

●地域産業地域社会との連携

顔抜きパネルのデザインを J R と交渉している。

地域から要請された課題について受け入れが進んでいない。地域の要望を聞いて、来年度の授業に反映させる授業を作っていくたい。

●広報活動

H P は比較的タイムリーに入っている。学校説明会の参加者の多くが H P を見て興味をもっていることがわかっているので魅力在る情報を発信できるよう検討していくたい。

【5 学校管理】

●防災体制

職員向けD I G研修

●意識啓発

テーマごとの研修をおこない、不祥事防止、職員間の意識向上を図った。
法的な見地からも不祥事防止研修を実施する。

○菊川総括教諭より

【教育課程学習指導】

●基礎学力の定着

『授業中話し合う機会がある』というアンケートで「かなりあてはまる」と「ほぼあてはまる」合わせて78.9%であった。一層の授業改善に向けて研究に取り組む。

●学校行事生徒会活動

マラソン大会体育祭文化祭の平均出席率は77%。今後は参加率が目標値になるよう生徒を指導していく。

【2 生徒指導支援】

●基本的生活習慣の確立

スクールカウンセラー・スクールメンターと連携し個々の生徒に応じた支援指導に取り組んだ。SC・SMと連携し、外部の機関と連携した支援指導ができるよう勤める。

●部活動

引き続き部活動状況調査を毎日実施する。
部活動のさらなる活性化を図りたい。

【3 進路指導支援】

●一人ひとりの進路実現

早い段階と進路希望を把握した。

●キャリア教育

卒業生を講師としたキャリア講演会を実施、社会人として必要な心構えや職業観の育成を図った。

【4 地域協働】

●地域産業教育活動

6月に地域貢献活動として町内清掃活動を実施。10月には桜井小学校で行われた桜井キッズフェスタに学校代表として初めて定時制の生徒が参加した。

●定時制の特色や最新情報を発信

町内回覧文書を作成。ホームページ作成ソフトを導入し、検討・準備を行った。

【5 学校管理運営】

●学習環境の整備・防災体制

指摘された内容について改善活動を行った。

●個々の職員の企画を活かし業務の効率化

アンケートを実施し、来年度に向けた業務の見直し、事故不祥事防止研修を毎月実施した。日常業務の効率化に向けたグループ業務の見直しに取り組む。

意見聴取

○近藤城北自治会長より

城北自治会から参加させてもらったが、災害はいつくるかわからないので、夜間に参加させてもらえて良かった。

○長田委員より

インターンシップの生徒が減少したというのはどういうことなのか。インターンシップは大切なもの。学校によっては2年生全員実施もある。定時制のキャリア教育を進める中で卒業生を招いて講演をしていただいた。ぜひ続けて頂きたい。定時制のPRを今までと違った視点で報せていったらどうか。定時の部活動を地域と連携して一緒に参加したらどうか。

○八田副校長より回答

インターンシップ減少の原因は調査中である。

減っているなら別の手立てが必要であったが、対応できなかった点が反省点。

○長田委員より

小田原駅の掲示板について検討しているのは良いこと。栢山駅を中心とした“何か”取り組みがあっても良い。生徒の利用率は一番高いので、生徒からアイデアを得て、検討していただきたい。

○星寄委員より

（校内見学の際は）専門教科の先生と生徒との温かみのある指導がとても良かった。生徒にはぜひプライドを持って勉強してほしい。思っていたより制服の乱れもなかったし、学習環境は整っていて、良かった。「（小中学生にとって）地元に通ってよいことがある」と思える高校だと良い。中が見られる催しを実施し、「地域の学校」を知ってもらうのは良いこと。高校生の不登校は何人程いるのか。専門性が高いのでいやになってしまう子はいないのかわかれば教えて頂きたい。定時制については資格取得によって勤めが変わった（定時制にきてよかったなあという感想をもった）子はいるのか。

○八田副校長より回答

全日制は学年に若干名いる。工業高校をこのまま続けていくのは難しいと判断し転学する生徒はいる。

○鈴木総括教諭より回答

卒業生保護者対象に満足度アンケートを実施。非常に満足をいただいている。

卒業生は資格を非常に多く取得した。その資格を活かせる会社に就職した。

工業に関する仕事をしていない生徒もいるが、学校でやっていることを職種に活かそうと

している。

○星寄委員より

選挙権がある生徒がいる高校。高校として参政意識を高めるような講演や授業は実施されているのか。

○八田副校長より回答

昨年度模擬投票を実施。講師を招いて公民教育を実施している。

②生徒の活動状況（全定担当）

○八田副校長より

部活動活動実績について説明

○鈴木総括教諭より

進路実績・資格取得について説明

桜井キッズフェスタ（10月実施）の活動記録を説明。

ヨーヨーが得意な生徒も参加し、小学生に指導した。

宇宙エレベータ大会準優勝（昨年）時のデモ機の説明を行い、児童は真剣に聞いていた。

③部会について（八田副校長）

円滑に進めるため地域連携部会に改めて「工業教育推進グループ」というものを入れた。

④委員からの意見聴取

○市川委員より

栢山駅の取り組みの件では、中学校区の育成会で「花いっぱい運動」をやっている。地域全体に駅前・保育園・尊徳記念館などのプランターに花植作業をしている。その困いを城北工業高校作って、そしてデザインして、その作業を一緒にできるのではないか。材料は学校で持ち寄るので高校の力を借りることはできないか。

○長田委員より

専門高校の地域連携は全国的に多く実施されている。教員はイメージが繋がっていないのでは。ぜひ検討したい。

○改田校長より

神奈川県立学校で風水害などの地域の住民の避難対応について整理されていない。

地域防災係り担当職員（小田原市）と連携方法（マニュアル作成・防災用具備蓄手段など）を議論整備していく。高校の避難所運営について来年度以降議論を進めていきたい。